

報, 第9巻: 13頁.

Shigezo Sugaoara (1939) *Illustrated Flora of Saghalien*, pp.828-824.

北川政夫 (1982) 日本の野生植物 草本II, 41頁, Pl.39. 平凡社.

長田武正・富士堯 (1977) 日本産帰化植物仮目録, 帰化植物, 141頁, 保育社.

杉本順一 (1978) 改訂増補日本草本植物総検索誌1. 双子葉編, 121頁. 井上書店.

大井次三郎 (1983) 新日本植物誌頭花編, 648頁. 至文堂.

高橋秀男 (監修) (1990) 野草大図鑑, 36頁. 北隆館.

森茂弥・城川四郎・勝山輝男・高椿秀男 (1993). スミレもタンポポもなぜこんなにたくましいのか, 45頁. PAP研究所.

---

〔植物ニュース〕

ハイイロヨモギ *Artemisia sieversiana* Willd.

1995年8月4日に、木曽郡木祖村小木曽の林道路傍にて、ヨモギ群落の中に、葉が白つぼく頭花の大きい見なれないヨモギ属植物を見付けた。神奈川県生命の星・地球博物館所蔵の標本と照合した結果、アジア大陸原産の帰化植物ハイイロヨモギであることがわかった。長田武正著『原色日本植物図鑑』によれば、1952年に小諸町千曲川畔で日本で初めて採集されたとあり、近年では1995年8月8日に、横浜市下永谷でも採集されている(神奈川県植物誌調査会ニュース第41号)。同定の労をとっていただいた高橋秀男先生に御礼申し上げます。(橋渡勝也)

---

〔植物ニュース〕

ケシヨウヤナギ *Chosenia bracteosa* Nakai

1996年4月26日に、堀金村在住の竹岡正男氏から、下垂する雄花のついた柳の枝が届けられた。翌日、松田行雄・清水建美両先生にその枝を、5月2日に豊科町在住の飯沼冬彦先生に現地を、それぞれ見ていただきケシヨウヤナギであることが確かめられた。生育地は穂高町牧地籍の標高610m付近、烏川河岸である。ここはかつて河床か溪畔であったが、現在は流れから離れアカマツが復元している林の縁に辺り、比較的乾燥した立地である。胸高直径25cm樹高約10 mの雄木で、幹には傷められた跡があり、樹冠も大きくない。烏川水系では、かつて一ノ沢に生育の記録があるが、1959年に洪水のため流されて以来見付かっていなかった。(橋渡勝也)